

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第4項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年4月14日
【四半期会計期間】	第35期第2四半期（自平成21年6月1日至平成21年8月31日）
【会社名】	株式会社ローソン
【英訳名】	LAWSON, INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 新浪 剛
【本店の所在の場所】	東京都品川区大崎1丁目11番2号
【電話番号】	03(5435)1880
【事務連絡者氏名】	財務経理ステーションディレクター 高西 朋貴
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区大崎1丁目11番2号
【電話番号】	03(5435)1880
【事務連絡者氏名】	財務経理ステーションディレクター 高西 朋貴
【縦覧に供する場所】	株式会社ローソン 本社 （東京都品川区大崎1丁目11番2号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜1丁目8番16号）

## 1【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

当社の連結子会社である株式会社ローソンエンターメディアにおいて、社内調査により、同社の元代表取締役専務および元経理担当取締役が権限を逸脱し、社内手続を一切経ずに独断で多額の資金を不正に流出させていたことが判明いたしました。当社では、外部専門家を含む調査委員会から、これに係る調査結果の報告を受け検証・検討を行った結果、当該資金流出に関して不適切な会計処理が行われており、また、当該流出資金（長期未収入金）の回収懸念等が判明したため、それらが本来処理されるべきであった決算期に遡って決算の訂正を行うことといたしました。

また、上記の訂正処理に伴い、繰延税金資産の回収可能性を再度見直し、回収可能性が見込まれない繰延税金資産について修正いたしました。

これらの決算訂正により、当社が平成21年10月14日に提出いたしました第35期第2四半期（自平成21年6月1日至平成21年8月31日）四半期報告書の記載事項の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。また、四半期連結財務諸表の記載内容にかかる訂正箇所についてはXBRLの修正も行いましたので、併せて修正後のXBRL形式のデータ一式（表示情報ファイルを含む）を提出いたします。

なお、訂正後の四半期連結財務諸表については、有限責任監査法人トーマツにより、再度四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しております。

## 2【訂正事項】

### 第一部 企業情報

#### 第1 企業の概況

##### 1 主要な経営指標等の推移

#### 第2 事業の状況

##### 4 財政状態及び経営成績の分析

#### 第5 経理の状況

##### 1 四半期連結財務諸表

[四半期レビュー報告書]

## 3【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_を付して表示しております。

なお、訂正箇所が多数に及ぶことから上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第35期 第2四半期連結 累計期間	第35期 第2四半期連結 会計期間	第34期
会計期間	自平成21年 3月1日 至平成21年 8月31日	自平成21年 6月1日 至平成21年 8月31日	自平成20年 3月1日 至平成21年 2月28日
チェーン全店売上高(百万円)	840,741	430,473	1,558,781
営業総収入(百万円)	226,596	116,555	349,476
経常利益(百万円)	29,770	17,673	48,787
四半期(当期)純利益(百万円)	<u>15.883</u>	<u>9.909</u>	<u>23.807</u>
純資産額(百万円)	-	<u>210,075</u>	<u>201,166</u>
総資産額(百万円)	-	<u>464,182</u>	<u>436,096</u>
1株当たり純資産額(円)	-	<u>2,048.40</u>	<u>1,968.12</u>
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	<u>160.17</u>	<u>99.92</u>	<u>240.10</u>
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	<u>160.04</u>	<u>99.84</u>	<u>238.89</u>
自己資本比率(%)	-	<u>43.8</u>	<u>44.8</u>
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	49,563	-	51,717
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	15,897	-	15,647
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	11,226	-	14,911
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高(百万円)	-	106,421	83,981
従業員数(人)	-	5,334	5,186

(注)チェーン全店売上高、営業総収入には、消費税等は含まれておりません。

## 第2【事業の状況】

### 4【財政状態及び経営成績の分析】

#### (1)業績の状況

当第2四半期連結会計期間（平成21年6月1日から平成21年8月31日までの3ヶ月間）におけるわが国経済は、経済対策の効果などにより一部に持ち直しの動きがみられたものの、企業業績の不振による雇用不安や所得減少に対する懸念が継続しており、依然として消費者の生活防衛意識は高く、厳しい状況が続きました。加えて、taspoco（たばこ自動販売機対応の成人識別ICカード）の稼働から一年を経過したことや、天候不順が続いたことなどにより、CVS業界においては厳しい環境となりました。

このような状況の中で当社は、企業理念「私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。」の具現化を目指し、CVS事業及びその他の事業を通じたCS（お客さま満足）の向上を実現するための施策を実行いたしました。

当第2四半期連結会計期間の業績につきましては、営業総収入は1,165億5千5百万円、経常利益は176億7千3百万円、四半期純利益は99億9百万円となりました。

#### （CVS事業）

当第2四半期連結会計期間における商品戦略及びサービス、店舗運営、店舗開発などの状況については以下のとおりです。

商品面につきましては、年間を通じて注力する商品群として、「フライドフーズ」「デザート」「調理麺」「おにぎり」の開発を行いました。また、お客さまの生活防衛を支援すべく、「ローソンストア100」を中心に展開しているPB（自主企画）商品のVL（バリューライン）シリーズを「ローソン」においても拡大して展開いたしました。特に、「105円惣菜」は、他の商品との買い合わせによりお客様からのご支持をいただきました。一方で、価格と比較して付加価値の高い「驚き」のある商品開発の第一弾として、「スタミナ牛焼肉弁当」を発売しました。

販売促進面につきましては、「ポニョのラーメンどんぶりプレゼントキャンペーン」など、効果の高い施策を優先的に実施し、お客さまからのご好評をいただきました。

サービスにつきましては、全国のATM（現金自動預入支払機）の設置台数は6,508台となりました。また、会員カードである「マイローソンポイント」と「ローソンパス」（以下、「ポイントカード」という。）につきましては、ボーナスポイント対象商品を拡大するほか、曜日限定でお買上げポイントを多く付与するキャンペーンを展開するなど、ポイントカード会員のお客さまに向けた販売施策に注力いたしました。その結果、平成21年8月31日現在のポイントカード会員数の合計は1,000万人を超え、お客さまからの高いご支持をいただきました。

店舗運営につきましては、本年度の新発注システム導入に伴い、お客さま起点の商品発注の考え方に基づいた店舗指導を行っております。

出店につきましては、当社グループ独自の出店基準を厳守し、関東・中部・近畿などの大都市圏に出店を集中させるなど、高収益の見込める店舗開発に努めた結果、新店日販は高い水準を維持しました。

#### 【店舗数の推移】

（平成21年6月1日～平成21年8月31日）

	ローソン	ナチュラル ローソン	ローソンストア100 及びSHOP99	合計
平成21年5月31日現在の 総店舗数	8,532	93	937	9,562
期中増減	75	1	7	67
平成21年8月31日現在の 総店舗数	8,607	92	930	9,629

中華人民共和国上海市でチェーン展開しております持分法適用関連会社の上海華聯羅森有限公司の店舗数は平成21年6月30日現在292店舗となり、平成21年3月31日現在に比べ2店舗減少しました。

生鮮コンビニエンスストア事業を展開している株式会社九九プラスにつきましては、主婦や中高年のお客さまを主な対象としており、価値ある商品をシングルプライスで提供することによりお客様の生活防衛意識に応え、業績は好調に推移しました。

提携面につきましては、平成21年6月1日に施行された改正薬事法への対応の一環として、平成21年8月24日に、株式会社マツモトキヨシホールディングスと業務提携を行いました。今後は、「医食同源」を事業テーマに、お客さまが求める健康で快適な生活の実現に向け、付加価値が高く専門性に優れた商品やサービスの提供及び新たな店舗づくりを進めてまいります。

また、沖縄県におけるローソン・チェーンの発展を図り、より一層、地域のニーズに応えられるお店づくりを推進するために、沖縄県でのCVS事業を会社分割し、新たに設立する株式会社ローソン沖縄に承継することとしました。併せて、株式会社ローソン沖縄の発行済株式総数の51%を株式会社サンエーに譲渡し、合併で運営していく内容の契約を平成21年9月28日付けで締結いたしました。

#### （その他の事業）

当社グループには、CVS事業以外にチケット販売事業及び金融サービス関連事業などがあります。

チケット販売事業を営む株式会社ローソンエンターメディア（平成21年7月20日付で株式会社ローソンチケットから

商号変更)につきましては、主力のコンサートや演劇、スポーツ関連のチケット販売の増加に伴い、業績は好調に推移しました。

金融サービス関連事業を営む株式会社ローソン・エイティエム・ネットワークスは、ローソン店舗などへのATMの設置台数及び取扱件数が伸張したことにより、業績は好調に推移しました。

#### (2)財政状態

資産は、前連結会計年度末に比べ280億8千6百万円増加し、4,641億8千2百万円となりました。これは主に、リース取引に関する会計基準の適用などにより有形固定資産が138億1千5百万円増加したことなどによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ191億7千7百万円増加し、2,541億6百万円となりました。これは主に、仕入高の増加などにより買掛金が125億8千9百万円増加したことなどによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ89億8百万円増加し、2,100億7千5百万円となりました。これは主に、利益剰余金が76億8千6百万円増加したことによるものです。

#### (3)キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は、第1四半期連結会計期間末と比べ25億2千2百万円増加し、1,064億2千1百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や仕入債務の増加などにより、101億7千3百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出などにより、63億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、リース債務の返済による支出などにより、13億5千万円の支出となりました。

#### (4)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (5)研究開発活動

該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第2四半期連結会計期間（平成21年6月1日から平成21年8月31日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成21年3月1日から平成21年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

なお、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受け、四半期レビュー報告書を受領しております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年8月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	102,005	82,486
加盟店貸勘定	11,048	21,376
有価証券	5,999	5,299
商品	5,005	5,292
未収入金	<u>26,965</u>	26,692
繰延税金資産	<u>4,327</u>	4,061
その他	<u>9,136</u>	9,692
貸倒引当金	132	140
流動資産合計	<u>164,356</u>	154,760
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	179,670	173,747
減価償却累計額	83,520	79,425
建物及び構築物(純額)	<u>96,149</u>	94,321
車両運搬具及び工具器具備品	58,250	61,920
減価償却累計額	44,734	48,462
車両運搬具及び工具器具備品(純額)	<u>13,515</u>	13,458
その他	19,920	7,219
減価償却累計額	770	-
その他(純額)	<u>19,150</u>	7,219
有形固定資産合計	<u>128,815</u>	114,999
無形固定資産		
ソフトウェア	28,400	26,586
のれん	5,108	4,851
その他	469	464
無形固定資産合計	<u>33,978</u>	31,902
投資その他の資産		
長期貸付金	28,760	27,422
差入保証金	85,140	85,357
繰延税金資産	<u>16,603</u>	<u>14,469</u>
再評価に係る繰延税金資産	-	180
その他	<u>10,717</u>	<u>11,346</u>
貸倒引当金	<u>4,190</u>	<u>4,342</u>
投資その他の資産合計	<u>137,031</u>	<u>134,433</u>
固定資産合計	<u>299,825</u>	<u>281,335</u>
資産合計	<u>464,182</u>	<u>436,096</u>

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年8月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	89,805	77,215
加盟店借勘定	2,373	822
1年内返済予定の長期借入金	736	816
未払法人税等	11,298	9,455
預り金	64,280	60,780
賞与引当金	3,097	3,199
ポイント引当金	1,351	933
その他	23,247	30,517
流動負債合計	196,190	183,740
固定負債		
長期借入金	624	1,152
退職給付引当金	5,651	5,050
役員退職慰労引当金	210	201
長期預り保証金	40,077	42,440
その他	11,353	2,344
固定負債合計	57,916	51,188
負債合計	254,106	234,929
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	58,506	58,506
資本剰余金	41,520	41,520
利益剰余金	105,497	97,811
自己株式	1,713	1,712
株主資本合計	203,811	196,124
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	55	40
土地再評価差額金	705	969
為替換算調整勘定	86	59
評価・換算差額等合計	675	950
新株予約権	283	274
少数株主持分	6,655	5,717
純資産合計	210,075	201,166
負債純資産合計	464,182	436,096



( 2 ) 【四半期連結損益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

( 単位 : 百万円 )

	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年3月1日 至平成21年8月31日)
営業総収入	226,596
売上高	106,526
売上原価	79,188
売上総利益	27,338
営業収入	
加盟店からの収入	95,758
その他の営業収入	24,311
営業収入合計	120,069
営業総利益	147,407
販売費及び一般管理費	117,271
営業利益	30,136
営業外収益	
受取利息	347
受取補償金	213
その他	246
営業外収益合計	806
営業外費用	
支払利息	128
リース解約損	794
その他	249
営業外費用合計	1,172
経常利益	29,770
特別利益	
固定資産売却益	24
持分変動利益	625
その他	2
特別利益合計	651
特別損失	
固定資産除却損	1,800
減損損失	2,051
その他	679
特別損失合計	4,530
税金等調整前四半期純利益	25,891
法人税、住民税及び事業税	11,330
法人税等調整額	2,220
法人税等合計	9,110
少数株主利益	897
四半期純利益	15,883

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

当第2四半期連結会計期間  
(自平成21年6月1日  
至平成21年8月31日)

営業総収入	116,555
売上高	54,996
売上原価	40,853
売上総利益	14,143
営業収入	
加盟店からの収入	49,256
その他の営業収入	12,302
営業収入合計	61,558
営業総利益	75,702
販売費及び一般管理費	157,762
営業利益	17,939
営業外収益	
受取利息	181
受取補償金	161
その他	91
営業外収益合計	435
営業外費用	
支払利息	82
リース解約損	476
その他	142
営業外費用合計	701
経常利益	17,673
特別利益	
固定資産売却益	23
特別利益合計	23
特別損失	
固定資産除却損	965
減損損失	696
その他	251
特別損失合計	1,714
税金等調整前四半期純利益	15,981
法人税、住民税及び事業税	8,079
法人税等調整額	2,528
法人税等合計	5,551
少数株主利益	520
四半期純利益	9,909

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間  
(自平成21年3月1日  
至平成21年8月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	25,891
減価償却費	12,018
退職給付引当金の増減額(は減少)	600
受取利息	347
支払利息	128
減損損失	2,051
固定資産除却損	895
その他の損益(は益)	201
売上債権の増減額(は増加)	10,328
未収入金の増減額(は増加)	274
仕入債務の増減額(は減少)	14,140
未払金の増減額(は減少)	9,033
預り金の増減額(は減少)	3,500
預り保証金の増減額(は減少)	2,363
その他の資産・負債の増減額	1,069
小計	58,805
利息の受取額	346
利息の支払額	128
法人税等の支払額	9,459
営業活動によるキャッシュ・フロー	49,563
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	1,580
定期預金の払戻による収入	1,500
有価証券の取得による支出	1,799
有価証券の償還による収入	4,100
有形固定資産の取得による支出	13,087
無形固定資産の取得による支出	4,278
関係会社株式の取得による支出	100
その他	651
投資活動によるキャッシュ・フロー	15,897
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	608
リース債務の返済による支出	2,610
配当金の支払額	7,933
その他	75
財務活動によるキャッシュ・フロー	11,226
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	22,439
現金及び現金同等物の期首残高	83,981
現金及び現金同等物の四半期末残高	106,421

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成21年8月31日)		前連結会計年度末 (平成21年2月28日)
1 偶発債務		
債務保証契約		
被保険者	保証額 (百万円)	被保証債務の内容
	—	
(株)クリエイティブ プロダクション	253	連結子会社である(株)ローソン エンターメディアが、株式会 社プレジールが被保証者に対 して負う特定興行に関する債 務を、保証しております。

( 四半期連結損益計算書関係 )

当第2四半期連結累計期間 (自平成21年3月1日 至平成21年8月31日)	
1 販売費及び一般管理費のうち主要な費用及び金額は次のとおりであります。	
広告宣伝費	4,321百万円
ポイント引当金繰入額	1,349百万円
従業員給料及び賞与	22,038百万円
賞与引当金繰入額	2,920百万円
地代家賃	34,414百万円
賃借料	7,001百万円
減価償却費	9,346百万円
2 特別損失の「その他」には、連結子会社である㈱ローソンエンターメディアの不正資金流出額に係る回収不能見込額に対する貸倒引当金繰入額41百万円が含まれております。	
当第2四半期連結会計期間 (自平成21年6月1日 至平成21年8月31日)	
1 販売費及び一般管理費のうち主要な費用及び金額は次のとおりであります。	
広告宣伝費	2,953百万円
ポイント引当金繰入額	300百万円
従業員給料及び賞与	11,108百万円
賞与引当金繰入額	1,320百万円
地代家賃	17,348百万円
賃借料	3,246百万円
減価償却費	4,871百万円
2 特別損失の「その他」には、連結子会社である㈱ローソンエンターメディアの不正資金流出額に係る回収不能見込額に対する貸倒引当金繰入額18百万円が含まれております。	

( 1株当たり情報 )

1. 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 (平成21年8月31日)	前連結会計年度末 (平成21年2月28日)
1株当たり純資産額 2,048.40 円	1株当たり純資産額 1,968.12 円

2. 1株当たり四半期純利益金額等

当第2四半期連結累計期間 (自平成21年3月1日 至平成21年8月31日)		当第2四半期連結会計期間 (自平成21年6月1日 至平成21年8月31日)	
1株当たり四半期純利益金額	160.17 円	1株当たり四半期純利益金額	99.92 円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	160.04 円	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	99.84 円

(注) 1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年3月1日 至平成21年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年6月1日 至平成21年8月31日)
1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益(百万円)	15,883	9,909
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	15,883	9,909
普通株式の期中平均株式数(千株)	99,167	99,167
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(千株)	80	80

	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年3月1日 至平成21年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年6月1日 至平成21年8月31日)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	株主総会の特別決議日 平成16年5月28日 上記の新株予約権は、平成21年6月9日をもって権利行使期間満了により失効しております。	同左

(重要な後発事象)

当第2四半期連結会計期間(自平成21年6月1日至平成21年8月31日)

該当事項はありません。



独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年 4月12日

株式会社ローソン

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員      公認会計士      鈴木 欽哉 印

指定有限責任社員  
業務執行社員      公認会計士      森田 浩之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ローソンの平成21年3月1日から平成22年2月28日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成21年6月1日から平成21年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成21年3月1日から平成21年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析の手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ローソン及び連結子会社の平成21年8月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

追記情報

四半期報告書の訂正報告書の「第5 経理の状況 2. 監査証明について」に記載されているとおり、会社は金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期連結財務諸表を訂正している。当監査法人は訂正後の四半期連結財務諸表について四半期レビューを行った。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。